
令和 6 年度第 2 回大山町総合計画審議会

令和 7 年 1 月 1 5 日（水曜日） 午後 2 時から午後 3 時 4 5 分

大山町役場 本庁舎 2 階 第 2 ・ 3 会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

【報告事項】（1）大山町総合計画の検討状況について

【審議事項】（1）基本構想(案)について

4 そ の 他

5 閉 会

出 席 者

1 審議会委員（出席委員 12 人）

西 田 菜々子	中山みどりの森保育園愛育会 会長
提 嶋 真知子	大山町人権・同和教育推進協議会
清 見 久 夫	大山町老人クラブ連合会 会長
山 根 均	大山町商工会 会長
足 立 敏 雄	大山町観光協会 会長
陶 山 友 文	大山町消防団 団長
金 田 結 花	大山町青年団 団長
松 信 多榮子	大山町女性団体連絡協議会 会長
荒 金 恵美子	大山町民生児童委員協議会 大山支部副支部長
菰 田 レエ也	鳥取大学地域学部 講師
加 藤 禎 久	鳥取環境大学環境学部 准教授
門 脇 明 子	町民委員

審議会委員（欠席委員 7 人）

林 田 徹	大山町 P T A 連絡協議会 会長
押 村 行 史	大山町社会福祉協議会 事務局長
福 留 茂 樹	鳥取西部農業協同組合 中山支所支所長
大 許 和 浩	大山森林組合 代表理事組合長
藤 田 裕 利	鳥取県漁業協同組合御来屋支所 総務課長
松 本 将 治	大山町建設業協議会 会長
本 間 唯	町民委員

2 事務局職員

山 根 篤 大	大山町 地方創生監
山 崎 栄 一	大山町総合戦略課 課長
西 村 済	大山町総合戦略課 主任
木 下 理 沙	大山町総合戦略課 会計年度任用職員

午後 2 時開会

次第 1 開会

○事務局 ただいまから令和 6 年度第 2 回総合計画審議会を開会します。私は、事務局を務めます総合戦略課長の山崎と申します。よろしくお願いします。それでは、開会にあたりまして山根会長からごあいさつをお願いします。

次第 2 あいさつ

○会長 はい。会長の山根でございます。去年の 7 月 17 日に 1 回目をやりまして、これが 2 回目ということになります。来年の令和 8 年から第三次ということがスタートするようですので、それに向かって成案を作っていくところでございます。とりあえず好きなことを発言いただいて、あとはまとめてくれるので意見を出していくということになると思っております。引き続き、よろしくお願いします。議事進行では指名いたしますので挙手いただきまして、名前を呼ばれてから発言をよろしくお願いします。では、よろしくお願いします。

○事務局 はい。ありがとうございます。それでは、次第 3 の議事に移りますので、議事のほうは山根会長に進行をお願いします。

次第 3 議事

○会長 はい。そうしますと報告事項から始めますが、事務局から報告をお願いします。

第三次大山町総合計画に係る検討状況について

○事務局 はい。本日は、マイクをご用意しております。ご発言の際はマイクをお渡ししますので挙手いただいてからお願いします。改めまして、大山町総合戦略課の西村と申します。それでは、座って説明させていただきます。

(資料 1 に沿って説明)

○**会長** はい。事務局からの説明が終わりました。ご意見をいただく前に、ワーキング・グループ会議と草案作成タスクフォースのメンバーは、具体的に誰ですか。

○**事務局** はい。草案作成タスクフォースは、役場の内部の会議になっておりまして、一部複数の課にまたがって選出された委員もおられますけれども、基本的には役場の課の数に対して、その課の中から代表として出てこられた職員さんで構成する会議になっております。ワーキング・グループ会議は、大体30名程度の会議になっておりますけれども、半数が各課の課長さん、もう半数が今回の審議会のように関係団体のほうから選出をいただいた外部の委員さんになっております。

○**会長** 了解です。そうしたら、ご意見はありますでしょうか。なければ次に行ってもいいですか。

(発言者なし)

基本構想（案）について

○**会長** 今のところ報告ですけど、次は基本構想案についての疑問やご質問がございましたら、ご意見ももちろん結構です。

○**事務局** すみません、失礼いたします。次の議事の審議事項で、基本構想案についてご審議をいただきたいと思います。その前に事務局から基本構想案について、補足説明をさせていただきます。まず、計画書の構成に関して、総合計画は基本構想と基本計画を記載する計画書と、別冊の実施計画の計画書で構成します。審議会でご審議いただくのは基本構想と基本計画の部分になりますけれども、ワーキング・グループ会議で計画書の形のほうがイメージしやすいのではないかとというご意見をいただいておりますので、今回、完成形をイメージして計画書を作成しております。中にはまだサンプルとなっていて、画像が入っていないところもありますけれども、こういったところは審議会後に改めて調整させていただきたいと思っております。また最終的に計画書にする段階では、今は写真等の挿入がないですけれども、そういったところも入れていたり、表が小さくて文字が見づらくなっているところは見開きページにするなどして、最終的に体裁を整えるように考えております。あとは、総合計画は町民だけではなくて町民以外の方にも、どのような町なのか知ってもらえるように、というようなご意見も検討の中でいただいておりますので、例えば町民憲章であったり、アンケートの結果であったり、二次計画よりもそういった情報を多く入れるように作成してきております。また、ワーキング・グループ会議からのご意見でしたけれども、これからも協働のまちづくりを進めていくという視点で、地域自主組織の取組をもう少し詳しく書いてはどうかというご意見をいただいておりますので、そういったところももう少しボリュームを持たせて各地域の活動を紹介させていただけるよう調整させていただこうと思っております。序論部分になりますけれども、全体的には基本構想の計画に入る前に、その序論部分で町を取り巻く状況であったり、日本全体や大山町の状況を整理させていただくことで、どうして

こういった基本理念や将来像になるのかというようなどの補足も兼ねて作成させていただいております。その他の点で、表現をもう少し分かりやすいものにしたらどうかとか、細部の書き方や言葉の選び方について、まだワーキング・グループからご意見をいただいているところがありますので、本日の審議結果も踏まえながら、改めて調整をさせていただきたいと考えております。

最後、今回の基本構想案について、欠席された委員さんからご意見いただいておりますのでご紹介をさせていただきたいと思います。『基本理念の「しぜんと人とワクワク未来へツナガルまち」、この「ワクワク」という新たなワードが印象的でした。私は御来屋地区に住んでいますが、ここ数年、空き土地に町外からの新たな出店があり、その店舗をきっかけに新たなイベントが開催されたりしています。また近所の名和神社でもこれまでになかった交流イベントも開催されました。近年大山町の情報が県外に発信される機会も増え、知名度も上がってきているように思います。第二次計画で町民同士がつながり合い、楽しさ自給率を高めてきた後に、第三次ではこの基本理念のもと、町内だけではなく町外の人とのつながりも高めていければよいと思います。そして、既存の資源を活かしながら外部からの新たな刺激をたくさん取り入れ、どの世代も「ワクワク」するような取組が増えていくことを期待します。』それでは、補足説明は以上になりますので、基本構想案のほかに序論の部分につきましても、ご意見ありましたらお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○**会長** はい。最初の基本理念に「しぜんと人とワクワク未来へツナガルまち」という案が出ていますが、これについてどうでしょうか。これは自然というのは平仮名でいいでしょうか。

○**事務局** はい。自然についてはネイチャーというか植物とかそういった自然という意味合いもありますし、おのずとつながっていくというような、そういった気持ちも込めて平仮名にしております。

○**会長** ツナガルはなんで片仮名なんですか。

○**事務局** 片仮名でいいかという意見がワーキング・グループからもありましたが、この意図としては、つながり方には様々な形があるので、その抽象的なイメージを持たせたいと思いました。こちらはやはり平仮名のほうがシンプルで分かりやすいというご意見もありますので、そのあたりご意見いただければと思います。

○**会長** どうですか。テーマについて。

○**委員** キャッチコピーなので、もう少し議論を進めて時間をかけてほしいです。

○**会長** 分かりました。ここは飛ばしましょう。そうしたら、町の将来像と基本目標のあたりはどうでしょうか。

○**委員** まず目次と本文の項番の振り方が不揃いな気がします。目次では括弧がついますが、後ろの本文のほうでは括弧がついてなくて、まずこの表記を合わせないといけないと思います。引き続きますが、あくまでも総合計画は行政が立案して行政が中心になり主体になって推進するという視点で、それに町民の皆さんも自分事として関わってほしいというスタンスなのだと思います。あくまで住民主体のような表現があるので、この

辺をもう一回見直してほしいです。もう一つ、3ページの冒頭の序論のところの最初に対等合併という言葉がありますが、今さら対等という言葉はいらなくて合併で十分ではないかと気になりました。3行目に二つ目という言葉があり、第二次総合計画という意味だと思うのですが、第二次ということであれば第二次と書くべきだと思うのと、楽しさ自給率の高いまちを書かれています。第二次のテーマとしてキャッチコピーがあるのであれば、当然最終的にはここに第三次のテーマ、第二次はこうだったけど第三次はこうだったというようなことを書いておくべきだと思う気がします。他にも新型コロナウイルス感染症のような疫病という書き方をされていますが、これも少し表現や考え方が違うんじゃないかと思っています。それともう一つ、3ページの序の下段のほうで、平成23年に地方自治法の一部が改正されたとありますが、地方自治法ではもう作らなくていいけど、大山町独自の判断で総合計画をつくったということをあえて書くことにどういう意味があるのかと思いました。町民に改めて提示するのに、この一文が必要なのかという気もします。最初に来る大切な文章なので、このままでは個人的に納得いかないものがあります。

○**会長** ありがとうございます。率直な意見で結構ですので、また考えていただいて成文をつくっていただくための資料になります。

○**委員** 町民意識調査の後に将来像に対して調査をされたんですよね。将来像の個人的な意見がたくさん載っている参考資料2がありましたが、回収率としては非常に低いと思っています。それを基にして全町民がというのはどうかという気持ちがあります。声なき声をいかにして汲み上げるかというところに、私は非常に迷う思いがあります。

○**会長** その他どうですか。

○**委員** まちづくり組織は、行政がこれまでやってきたことで手が回らなくなることもあるから、まちづくり組織に期待するという発想だったと思います。イベントや地域の楽しいことをやって、地域の仲間の輪を作ることも大切なことだと思うんですが、それだけでは終わらず、行政としてももう少しまちづくり組織に担ってほしいものがあつたはずなんですけど、この辺がどうなっているのかと思っています。もう一度、行政が自主組織に「このベースだけはやって」という、あとは独自の色があってもいいという発想でまちづくり協議会を発足したはずなので、そのことをもう一回ここでしっかりやってほしいです。その上で自主的な活動を尊重するっていうやり方でないと、地域自主組織が10か所できたから第三次計画の中ではもう十分な成果を上げたところからスタートできるんだと私は考えられないです。どの部分を担ってきて、ベースとしてどの程度できているのかということもやらないと、毎回大きな予算を使って毎年やっているはずなので、今のまちづくりを尊重しつつ、そこら辺を整理してほしいと考えています。

○**会長** まちづくりの組織にあまり重荷を背負わせると、人がだんだん少なくなってくるから、程度というものもあるけれども、事務局は何かありますか。行政側としては、まちづくり組織は楽しさを自分たちで作るための組織という感じで作られたんですよね。

○**事務局** 地域自主組織の役割で大きいのは、地域の課題の解決というのが一番だと思っていますので、その辺りは書いたほうがいいと思います。

○**会長** 総合計画は長いので、全部を順番に取り上げていくというわけにはなりませんけど、最初のほうは情勢の状況説明に終始しているので、一番皆さんに問いかけるのは、これからの町に必要なことの7番からですかね。大山町は5年で1,000人、10年で2,000人、間違いなく人口が減っていますが、予想よりも少ない感じみたいですね。市も徐々に減っているけど、分母が大きいから率的には減る率も少ないです。山間部の町のほうに比べるといいのかもしれないけど、住宅を作って山間部のほうから市街地に呼び寄せてるんですよね。

○**事務局** はい。鳥取県内の人口動態なんですけど、鳥取県西部でいうと、郡部から人口が流出すると市が一旦ダムのような形になって、今度は市街地から都会に出るというのが大体の流れになってました。そういった一段階、二段階という人口の流れがあるようです。

○**会長** こうやって見ると、予定では2040年には本当に1万人を切りそうですね。日本全体でいけば2050年のあたりから1億人を切るみたいです。間違いなく人口減少ですね。人口がどんどん減っていきます。

○**委員** 消滅町村の中に大山町とか山間部の町があって、西部でも入っていない町もあるみたいですけど。

○**会長** 市に近い町もありますから。さっきの話でまずは市街地に下りてきて、それから都会のほうに行いくというパターンですか。でも、いずれは町も市と合併しないといけなくなるかもしれません。それとも小さい自治体同士とか。小さい自治体になると人件費が出なくて、職員も今みたいにやってもらえるような状態ではなくなるかもしれません。国も進めていますけど、急いでウェブとかでいろいろやっていくような格好にしないと、アンケートとかもそう思うんですけど。

○**事務局** DXとかデジタル化だと思いますけど、役場のほうだと書かない窓口に取り組んでいます。例えば、申請書を出すにしても何枚も同じ住所氏名を書かないといけないということがあるんですけど、マイナンバーカードを出して手続きを選んでもらうと、全部にそれが印刷されるような形になるようなところから取り組むようになってきています。これは近いうちになると思いますし、いろんな面でDXを推進していかないと、どうしても人手が足りなくなってくるところもあります。

○**会長** どのみち今の状態では職員も雇ってもらえなくなってしまうから。

○**委員** まちづくりの発足のときに、役場の職員も少なくなって地域のことが十分にできなくなると出てきました。まちづくり組織になる前の10地区には、まちづくりをやってもらうために、できる範囲でいいから何かできることをやってもらうためにするところ、今は様変わりしてきたようですけど、そのことを再確認すべきではないですか。DXだけでは特に人が関わることは解決しないと思うので、地域の介護やいろんなことも含めて助け合いを育てるためという地域づくりの発想を、出発当初に戻ってまちづくりの皆さんと行政でもう一回整理して作りあげてみてほしい気がします。本来地域で担うべきものもあると思うので、そこを探りながら、楽しくやりながらできると思います。お任せでなく行政がひとつ芯を通して、これでどうかということと呼び掛けても

う一回つくり上げていくことが必要のような気がします。それと資料1の10ページの最後のほうに、パラダイムシフトの視点を持つと書いてあるんですけど、その中で緩和できる幅と適応できる幅から道のりを考えると、緩和とはどういうことか、適用できるとはどういうことか、おそらくこの基本理念に反映されているという気がしていますが、その思い切った転換がどこにどう反映されているのかという期待をしながら読ませてもらっています。ただのお題目だけでなく、パラダイムシフトをどこでどういうふうに使おうとされているんでしょうか。急激な変化を受けてから、どんな対応を思い切っていないと第三次は成り立たないということを考えられているのか、基本理念のどこに投影されているのでしょうか。

○会長 事務局は特にないですか。

○事務局 失礼します。パラダイムシフトの視点をどのように基本理念に反映されているかということですが、結論から申し上げますと、パラダイムシフトの視点を基本理念に入れましたという説明はしにくいところがありまして、方法論、いわゆる基本計画寄りの事業であったり施策であったり、そういったところで、やっぱり今までどおりのやり方ではなくて、例えば先ほどの自主組織がこれからどうあるべきなのか、今までとは違った視点で物事を考えてみないといけないんじゃないかと、そういった若干懐疑的な視点を持ちながら、今までどおりではない考え方、そういったものを心に留めながら検討していこうという、そういった視点で反映させていただいております。具体的にこれがこうだからここに反映してますというのは、現状まだ言いにくいところがあります。

○会長 要はそういうワーキング・グループとしての考え方に基づいて、作ってきたということですね。

○委員 さっきも言われていたんですが、資料1の18ページのアンケートの回収状況が12.15%というのは相当低いと思いました。さらにアンケートの参考資料がついていたので事前に読んだんですが、ほとんどの項目に対して60歳以上の方の意見がほぼ占めています。私はこういう審議会の委員の役をやるのが初めてだったので、一回目のこの場に来たときにずっとそのことを思っていました。私と同世代の方も審議委員に選ばれると思いますが、20代の委員さんとか、住民さんの意見を拾うのは本当に難しいです。今回届いたアンケートに思っていることを書いてみようと思って書いたんですが、子育てと仕事をしながら分厚い冊子が送られてくると、本当にプレッシャーに感じたり、気になっていることはあるけど時間がなかったりして、あえて時間をとって書くというのは、働く世代の方にとってすごくハードルが高いので、そういう形式じゃない他に意見を拾う方法がないのかなと思いました。もっと気軽に意見を拾えるような可能性があるなら、子育て世代とか、逆に子どもとか、そういう年代の意見を拾える場があるといいなと思っています。あとさっきもまちづくりの方の活動があったんですけど、そういう方の会議の場には私と同世代でまちづくりに所属されている方もすごくたくさんいるので、そういう方の意見がそういう場で補えているのであればうれしいなと思いました。

○会長 LINE を使ってできないですかね。

○委員 気軽にする方法とか文書で答える方法でもいいかと思うんですけど、時間を取ってそれに向かう作業がものすごくハードルが高く感じました。

○会長 その他どうですか。

○委員 さっき他の委員さんもおっしゃっていたことで、地域自主組織に対しては、私はイベントで三つぐらいの組織に絡んでいろいろ活動を拝見しているんですけど、若手の方が窓口になってすごく一生懸命やってらっしゃるところと、リーダーの方が高齢のところは何かやっぱりマンパワーとか雰囲気がそれぞれ違ってきます。同じお金が町から入っていて、それをどうやって消化するかを悩んでおられるようなところもあります。私の地域では、活動内容を作られて、回覧版で月に1回住民に回すので、どういうことをやっていらっしゃるかがよく分かるんですけど、その開きがすごくあるように思えるんです。古くからすごく活発にやってらっしゃるところと新しくできたところの活動に今すごく差ができていないかというのは感じます。それで、集落支援員さんも若い方がおられるところは、防災のことを含めたり一生懸命やっていらっしゃる、ほかの地域のことでもどんなことをやっていらっしゃるのかを知りたいと思うときもあります。そういう情報が皆さんからいただけたらいいと思います。それとこの資料の2の16ページのところでですけど、イベントに関してすごくさらっと書いてあって、3月には名和の公民館まつりとかもあるんですが、そういう催しが全然載ってないですし、一部しか載せておられないような気がするので、もう少し細やかに載せていただいたらうれしいです。

○会長 門脇家の見学会はいつでしたか。

○委員 5月の連休の時と、秋の文化の日の周辺の祝日です。そのときに所子の自主組織がマルシェを必ず開いてくださって、その流れでうちにも若い方が寄ってくださったり、町外からもたくさん来てくださっているの載せていただけるとうれしいです。

○会長 はい。事務局。

○事務局 この計画の中でサンプルとして記載させていただいているのは、二次計画のもので、おそらくその当時も町のイベントを全て載せていたわけではないと思いますが、今後その自主組織のイベントですとか、関係する課に照会をかけて、載せていくものなど調整して検討したいと思います。

○委員 一般公開はすごく昔からやっていて、昔は文化祭に兼ねていただいて、それでポスターにも書いていただいたり、町がすごく後援してくださっているのを感じているので、今後も頑張っていこうと思っていますので、よろしくお願いします。

○会長 はい。お願いします。

○委員 資料1の12ページ、計画策定における各役割と作業のところ、若年世代との意見交換でテゴテゴプロジェクトを通じてヒアリングと書いてありますが、これは今後されるんですか。事務局に質問です。

○事務局 こちらに上げている取組については今後予定をしております。テゴテゴプロジェクトということで、意図としましては、やはり若年層中学生のご意見も伺いたいというところです。まだ実施ができてないことについては、基本構想の検討になりますと、

すごく総論的なところがあって、個別具体の議論のほうでご意見を出していただいたほうがいいんじゃないかというところがあって、基本計画に近い段階でご意見を伺いたいというふうに考えております。

○委員 ありがとうございます。私もこの会に参加するにあたって情報収集をいろいろして、たまたま目についたのが、福岡県の遠賀郡にある水巻町の総合計画です。見せ方もすごくユニークで、本みたいな形になっています。その中で、ネットにまとめた記事があったんですが、小学校に職員が直接出向いて、お昼休みとかに200人、300人ぐらいに意見を聞いたという記事でした。さっき文面で書いたりするのはなかなか大変だという意見があったところで、聞き取りだったら簡単にできるのかなと思ったところです。あと二点ですけど、資料2の基本構想の計画書の中で、39ページの未来を測るものさしの人の状態のところ、グラフは都道府県単位でしか出ていないものということでしょうか。大山町の状況を測るのに鳥取県単位で見ているところを疑問に思いました。最後にもう一つ、35ページに戻るんですけど、最初にキャッチフレーズのお話でツナガルを片仮名かどうかというお話があったと思います。次の基本目標のところではすごく平仮名にこだわって、人とか仕事とかつながりとか全部平仮名で統一されているので、キャッチフレーズも平仮名のほうがいいのかと思いつつ、個人的にはつながるということをすごく強調したいと思っています。今回大山町青年団として来させてもらっていますが、なかなか大山町内の若者が少なくて、青年団に入れる対象を町内外問わず、その活動に関心がある方として参加していただけるようにしています。ですが、結局、今活動できているのが10人ぐらいで、なかなか少ない中で活動しています。この度年越し1月1日になる深夜0時から、5年ぶりに名和神社さんのほうでぜんざいの振る舞いをさせてもらったんですが、そのときにも9人でした。青年団活動をしているメンバーがいても、お子さんが生まれて活動が夜中にできなかつたりなどもあって、当日11人中4人だけが青年団の団員で、それ以外は友達を誘って何とか活動ができていたので、ぜひこのつながりは大事にしてもらって、書くときの書き方みたいなところを工夫していただけたらうれしいなと思いました。

○会長 キャッチコピーをまた後から成案にする前に論議しましょう。

○委員 ツナガルについてなんですが、資料を送ってもらったときにツナガルが片仮名でいいのかと私も疑問に思いました。昔からある日本の漢字のほうが意味があっているのではないかと思います。それとまちづくりのことですけども、イベントなどみんなや若い人も集まってるいろんな催しをするのはいいんですが、まちづくりというのはイベントをして楽しくするばかりがまちづくりじゃないと思います。私は民生委員していますが、やはりまちづくりというのは、皆さんの家庭の近所の人いろんなことをみんなが知っていて、何かがあったときにすぐ助け合える、そういったこともまちづくりに入ると思うんです。今ずっと見ていますと、何かイベントや炊き出しをして食べるなど、見ただけで分かる民生活動、イベント、まちづくりをしていますというのは頭に出ているんですが、もう少し深いところにまちづくりの仕方というのがあると思います。そのことをもう一度考え直して、どの組織もそういったイベントもしてもらいたいと思います。

例えば、ここのうちには誰が住んでいて、おばあさんが一人住んでいるとか、何かあったときにはどの人が助けてあげるかというような、そういった同じ集落の中でいろいろ考えていくのもまちづくりだと思います。

○**会長** 誰がどこに助けに行くんだというのをやっているところもありますね。我々の商工会、青年部のほうから今日まで来ましたが、やっぱりイベントに関わって、それぞれの役割を担って責任をもってやるというのは、また後の喜びにもつながりにもなるということを考えましたから、イベントもそれなりにやったほうがいいのはいいですけど、なかなか今はそういうエネルギーが出てなくてどんどん廃れていますから、それをしてもらうのは嬉しいことだとは思っています。ただ確かにイベントばかりじゃなくということもわかります。

○**委員** 今の近所付き合いの件で、もう十何年も前ですが、自主防災組織というものを町内挙げて作りました。その当時には名簿のようなものを作って、各家庭のここにどんなという方が住んでおられますよというのができていたのですが、今は個人情報といったものがあまりにも盛んになってきて、それができなくなってきたという現状がありますから、それが復活したらいいなと思っております。それこそ近所付き合いは大切なことだと思います。

○**委員** 全体的にこの資料を見ていて、やっぱり大山町にはいいものがいっぱいあるというのを本当に再確認しました。回収率の少ないアンケートでしたが、やっぱり大山町の良さというのは実際にありますし、それを実感している人もたくさんいます。だから人口が減ってもそれを本当に大事にしていけないといけなそうごく感じました。先ほどから話題になっている地域自主組織の件もそうですが、PR力が大事だと思います。大山町が発信するPR、誰に発信するかというと、県外の人にも全ての人に大山町のこと分かるような方法で情報を流すことが、今とても大事ではないかなと思います。だから、大山町の良さがまだまだ伝わっていないのではないかと感じます。先ほど若い世代の方々がいろいろ言われるのを聞いていて、やっぱり分からないことがあるとすぐネットで調べて、そういうネットの情報でみんなが生活しているのが現実です。これからもっとそうになっていくと考えると、紙媒体で配布したり回覧したりということも、まだまだ必要な世代もいますが、DXやあらゆる手段で県外にもどんどん情報を流すことをしてもらいたいと実感します。世界各国からでも見られるので、そのPRをぜひお願いしたいと思います。

○**会長** たしかに大切だと思います。町外や県外とかにPRして、感心してもらおうとまた郷土愛が生まれてくるし、誇りが出てきます。

○**委員** 大山町の良さは、決して自然が豊かだとか、人のつながりがいいとか、文化歴史も豊富ということだけではなくて、さっきの地域自主組織であるとか、移住定住にもいろんな補助をしていらっしゃるし、子育てについての制度もあるし、いろんな制度があります。それを額面で出すのかとおっしゃるかもしれませんが、いろんな制度について本当に大山町は充実していると思います。こういう良さを知った人はやっぱり来なくなるんじゃないかと思うようなものがたくさんあります。

○会長 あんまり人が来ると予算が結構かかりますね。

○委員 それぐらいがちょうどいいんじゃないでしょうか。

○会長 その他、意見ありませんか。

○委員 皆さんの意見を聞いていると、もう少しまい具合に役場の考え方と民間の考え方が結びついていけばいいのかなと思います。イベントに関しては、僕らみたいな観光業者は今までずっとやってきましたし、飲みニケーションの中で育った世代です。そういう人と人との結びつきを非常に重要視してやってきた世代です。ところが今、そこらがたくさん否定される世代になってきているので、その辺をどうやってまちづくりの中で活かしていくのかということに非常に悩んでいます。今、大山の観光協会のほうもDMO組織に変えようとしているんですが、大山町のいいところをどういう形で、町外や日本中、最終的には世界に発信していけるかなと考えています。先ほど地元の周りのことがもっとよく見えるようにという意見が出ましたように、それが一番大事で、そこから物事が始まっていきます。外のことばかりでなく地元からまちづくりをやっていったらいいのかなと思います。ただ、そればかりではなかなか皆さん集まってくれないので、やっぱりそういう中にもイベントなど、一緒に何か物事をやることが団結を強める一番いい方法だと思います。その辺のところも加味しながら、これからは基本構想の中に活かしてもらえたらなと思います。

○会長 その他にありますか。

○委員 先ほどの情報発信のことです。一つ例を挙げると、門脇家住宅の一般公開のことを町がホームページで出してくださっているんですけど、それが商工観光課の中の文化財室のページにいかないと情報が得られなくて、ほかの人から苦情というか、もっと総務とか町のホームページ開いたらぱっと大きなイベントが分かるような形にしてほしいです。

○会長 出てきませんでしたか。

○委員 情報がある各課のページまでたどり着けないんです。最近の傾向としては東京とかすごく遠くの方からも問合せの電話があって、詳しいことを私が答える形にしているんですが、もう少し広く情報発信をしていただけたらありがたいなと思っております。

○会長 事務局は何かありますか。

○事務局 はい。大山町のホームページでは各課でいろいろイベントを書くようにして、トップページの新着情報に上がるようにしてもらっています。なので、その設定がしてあれば、トップページを開くと情報が見られることになるんですが、どうしてもゴールデンウィークとか秋のシーズンになるとイベントだらけになって、すぐ下に埋もれたりすることもあるって、なかなか見えないというところもあります。あと新着情報がいろんな情報との一本になっていますので、例えばイベントはイベント、入札情報は入札情報、それ以外の行政のお知らせはお知らせのように分けたほうがいいという話はしているんですが、ホームページの改修にお金がかかるということもあるって、今手がついてないところもあります。あと町の公式 LINE もありますので、そこでメニューを作って、地域のイベント情報とかを選べるような形にしたいと考えています。

- 会長** たしかにコマーシャルは大切です。情報がないと人は動かないですから。
- 委員** この基本構想についてまだまだ審議する時間はありますか。
- 会長** これは3月にもう一回審議会をするまでに、ワーキング・グループやタスクフォースの会議があつて審議するということです。
- 委員** この際ですから、資料2の29ページに類似団体平均という言葉が出てくるんですけど、初めて目にする言葉でした。類似団体という表現は、近隣の市町村と考えるんですか。これは近隣の西部地区市町村と比べたらこう、という表現のほうが分かりやすいと思います。類似と言ってもどこまでが類似なのかと感じました。21ページには共創という言葉があつて、新しい言葉にはすごく抵抗感があるんですけど、これは全国的にというか鳥取県内でというか、行政的に流通している言葉ですか。
- 会長** 私たちは結構使いますから。聞くことはよく聞きます。
- 委員** そうですね。共に働く共働という言葉は昔にありました。それまでは共に同じく、だから共働という言葉が出て、それと同じような意味合いというか、雰囲気の中で生まれた言葉なんですかね。類似団体は、西部地区市町村のほうがより身近じゃないかなという気がします。
- 事務局** 類似団体に注釈を入れさせていただこうと思います。類似団体は、全国の市町村で、人口ですとか産業の構造、これらが同じような程度にあるものが分類されておまして、一概に県内の近隣の市町村ということではないというのを補足させていただきます。こちら財政的なところなので、もともと難しいところがあるので、なるべくこちらにも注釈を入れるようにさせていただこうと思います。
- 会長** 注釈があるといいですね。その他よろしいですか。
- 委員** 人口流出に市がダムになって、そこから人口流出ということを伺いましたが、その人口流出を大山町が受け止めるというような構想、例えば少し古い手段ですけど大学、鳥大医学部だったり、鳥取の環境大学だったり、鳥大だったり、それから倉吉には鳥取短大だったり、市とその周辺に大学がないので、魅力のある大学で、県内の高校生を集めたり、あるいは魅力があれば県外からも来ると思うので、そういった大山を背景にしたすごいキャンパスができたらというような夢を見ております。そうしたら、県外からも若い人が来て、住んでみたらいいところだということであれば、また定住が始まったりするんじゃないかなと思います。人口減少では県内の移住、町外のような感じではなくて、県外から人を入れてくるような施設があればいいんじゃないかなというような気がしております。
- 事務局** 大学の誘致もですけど、高等教育として大山町には高校もないです。高校に通おうと思ったら、どうしても市に通わないといけないということもあるので、大山町内に何とか県立高校の一部でも持ってこられないかというような要望活動等もやったりはしています。ただ、こちらのほうは県の計画もあるので、そう短期的にできるようなことでもないので、要望活動としてはやっていますが、そういったこともありかなと思っています。大学の場合は誘致しようと思うと、まず何十億というお金がかかります。その辺の覚悟もしていけないといけない面もありますけども、何とかそういう高等教育

を引っ張ってきて、人口流出を食い止めるという考え方は賛同できる部分もありますので、何かしら反映できたらと思います。

○委員 資料2の第2部の基本構想のところですが、基本構想に基づいて基本計画を策定されていくということで、まず、1のまちづくりの基本理念のところ、基本理念がしっかり書かれていて、2の将来像と基本目標のところ、皆さんに分かりやすく5つの目標から5つの視点が書かれていると思います。人と仕事と暮らしと自然と繋がりです。どれも非常に重要な視点で、総合的に生活の質が高く安全安心で大山の豊かな自然を実感していく、町民全員が参加できるまちづくりをしていくということで非常に素晴らしいと思います。次に3の計画推進のためにというところで、三番目の横断的な取り組みの推進というところが、私も非常に重要だと思っています。今いろいろ地域の課題やその背景、解決までもが非常に複雑になっていて、行政の各課が連携して取り組んでいくと書いてあるんですけど、本当に書かれてる通りに各課が連携して主要な課題に取り組んでいくような仕組みづくりというのを行政の方にぜひしっかり取り組んでいただきたいと思います。そして、次の章の5の未来へ歩む施策の体系というところで図があるんですけども、基本理念から5つの目標があって、それが具体的にどういう政策とか取り組みに関係しているのかというのを体系的に図で示すというのは非常に重要です。他の行政文書で、例えば緑の基本計画でも全体の構想図があるんですけど、こういう図があることで基本計画を見る人が全体の内容を把握しやすくなりますし、実際に政策を行うときも、この全体の構想図が非常に参考になるので、こういう形でこれから取りまとめていただけるということで、非常に期待できる内容になっていると思いました。前の背景のところにも非常に重要な事柄が最初のほうにまとめられています。まず一つが30ページの6の持続可能な開発目標のSDGsが書かれているところなんですけど、SDGsは国際的な取り決めで、ご存知のように日本政府も鳥取県も皆さん積極的に取り組んでいる政策です。地方自治体でもSDGsの目標を地方に当てはめた形で、今日の課題の解決のために使うという考えが今非常に重要になってきています。環境省が提唱されている地域循環共生圏という話があるんですけども、そこにも合致する話です。地域循環共生圏の話はローカルSDGsとも言われていて、地方自治体でもこういう国際的な目標について、地方の課題に取り組むことで積極的に解決に関わるというところは非常に重要だと思っています。もう一つ、31ページの7のところなんですけども、これからの町に必要なところというところで、やりがいを感じられる仕事を求められているとあります。農林水産業の基盤の産業だけではなくて、商工業とか観光にも通じる形で大山町の豊かな自然を活かしていくということで、地域のブランドづくりのことが書かれています。今インバウンドがすごくて、海外からの観光客の方が非常にたくさん日本に來られていて、政府も首相も唱えられてますけども、地域の再生にインバウンドの活力を活かしていこうという考え方が国の政策でもあります。この自然に基づく観光で、収入を増やすということにもなりますし、地域の働く場所を提供したりとか、働く人数が増えるということにも繋がりますので、オーバーツーリズムにはならないようにしながら、今首都圏に來ているインバウンドをうまく鳥取に取り込むことが重要なんじゃないかな

と思いました。それから大山町は地理的には近隣の松江とか出雲とかに近いというメリットもあると思いますので、出雲大社だったり島根の方に来る観光客をうまく取り入れつつ、例えばハイキングとか、山登りとかもあると思うんですけど、大山の自然を活かした観光産業の発展にインバウンドの力をうまく伝えていくというところがこれから非常に重要なんじゃないかと思いました。

○委員 個別的な内容になりますけれども、鳥取大学の学生と大学に関する議論の延長で大山町に学生ボランティアを派遣するなど、そういったような制度があるのでしょうか。つまるところ、学生がこういった計画ですとか、そういったところに意見を言ったり、また大山町としてもそういった声を参考にしながら、そういった事例が何かできないかと思っています。

○事務局 大山町では、鳥取大学さんとの連携事業というのがありますので、こちらまちづくり課という課が所管しておりまして、そちらともまた情報共有をして、お返しをさせていただきますと思います。

○会長 はい。それでは大体意見が出たと思うのでこの辺で締めていいですか。

（「よし」と呼ぶ者あり）

では、ここで第二回を終わらせていただきたいと思います。お疲れさまでした。

次第４ その他

（事務局からの事務連絡）

次第５ 閉会

午後３時４５分閉会